

って牛舎で稼いでくれる145cmの牛をリングに持って行ってもどうでしょうか、やっぱりスタイリッシュで長さのある、乳房のピタッと張り付いたような牛が良く見えるでしょ。品評会なんですから。

共進会に参加する事で人との繋がりが出来ます。うちの牛が敵わなかった三輪さんに、ジュニアチャンピオン牛のゴールドチップの受精卵を2個格安で分けてもらいました。あの一族は姉妹も共進会で活躍していますし、先代は93点のチルダ・クリエーション・マックスで、3代EXですから。共進会に行く事でそういう繋がりが出来ますからね。雑誌で見ているだけでは繋がりは持てないと思います。

それに普段中々味わえない緊張感がありますし、いろんな刺激があります。だから今の仕事に携わっているうちの共進会は続けたいですね。実力としては昨年の関東BWでクラス2位がやっとで、まだまだ頑張らなくてはならないですね。うちの社長も牛好きで、共進会は必ず飛んで見に行きますよ。

～シンジケートSDBCのメンバーですね。

埼玉の牛は大きな共進会で上位に付くことが少なかったですね。それで、2002年に何人かで牛を買わないかと先輩の桶川市の岩崎さんに相談しました。それで桶川市の島村さんと熊谷市の鈴木さんにも声をかけて4人で毎月5万円ずつ貯めようとなりました。月20万、年間240万、これを4年間で1,000万円貯めました。このお金で5系統（デリア、ロクシー、マスカラ、ハーゲン、テツチエ）を導入したのです。テツチエからはEX牛が出ましたが、他のシンジケートのようにショウで華々しい活躍とか、注目されるような牛はまだ出ていません。ショウの出品技術もまだ伴っていないのでしょうか。でも、それぞれが順調に増えています。導入牛の娘まではシンジケートのもので、孫娘からは各自の所有になります。

中でもタイプが良いのはロクシーですね。受精卵で買ったものですが、1頭生まれて受精卵をみんなに配り、結構良い牛が出てきています。ロクシーの血ってすごいですね。何代にも渡って有名な牛が出てきますからね。

## いつかは第2農場も視野に入れて、 自給飼料確保に取り組んでいく。

～アイスやチーズ用にホルスタイン以外の品種もいるのですか。

ブラウンスイスだけです。搾乳牛が4頭、未經産が3頭います。15年ほど前にアメリカの有名なブリーダーに買い付けに行って、10頭導入しました。この3代目が当時の国内最高の87点になりました。その娘も同じく87点をもらいました。

当初はこのブラウンスイスの乳だけを分けてプラント用



左から寺田場長、従業員の柳沢さん、そして加藤忠司社長。ブラウンスイスのムサシ・スノーバード・クレイタスは母娘で87点を獲得した。

にと考えたのですが、実際は難しく合乳にしています。

ブラウンスイスは気が強いですし、乳頭溝がすごく狭いので乳房炎になるとたちが悪いです。体に脂も付きやすいので、ホルと同じ餌を与えているとどうしても妊娠しづらくなります。そんな原因で10頭入れたのに今は2系統の7頭になってしまいましたが、この2系統はホルと一緒に飼っていても、そんなに肉が付かないですね。

本来ブラウンスイスは粗飼料中心で飼う牛ですから、ホルと同じ物を食べさせて、同じような乳量を求めては駄目なんですよね。でも、うちの牛たちは13,000kgなんて牛もいますから、ホルに負けていないんですよ。しかし、やっぱりホルスタインが好きなんですね、僕も社長も。

～都市近郊酪農を今後どのように展開していく予定ですか。

今牧場のスタッフは場長含め4名、搾乳だけのアルバイトが5名。プラントは社長の娘3人と従業員が2名、パートさんが20人くらい。全部で30人以上の事業になっています。

社長の構想としては、将来的には第2農場を作りたいようです。今借りている離れの土地で分場を始められればいいのかな。今の所でもとりあえず10年は続けられますが、だんだんやりにくくなっているのは事実です。堆肥なんかも出しづらいですしね。堆肥の大きなプラントを作るにしても土地が限られていますから。

TPPなどで都市近郊の酪農は難しくなってくるでしょうが、やれる事をやっていたら国も生き残る方法を提示してくれると思う。自分たちはとりあえず耕地面積を広げて自分の餌を確保する事が1番でしょう。水田などの耕作放棄地があるので、これを使っていけば50haくらいには増やせるかもしれない。面積が増えればイヤコーンサイレージを作って、自給飼料を増やせると思います。ただ、畑は小さい単位で点在しており使いづらいので、今のうちから手当てをしていけば、まだまだ可能性はあると思います。